

---

# 峠の覇者

レグルス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

峠の覇者

### 【Nコード】

N0238E

### 【作者名】

レグルス

### 【あらすじ】

自転車好きの少年が、初めてのレースに挑む！

・前編・（前書き）

この小説は、自転車競技の一つである「ロードレース」を題材にしています。

ついにやって来た…

初レース。

やっと、待ちに待ったこの日が来たんだ！

小1の時、初めて自転車を買ってもらって、乗り回したときの感覚。あれだけは忘れられない。生まれて初めて感じた、風を切る感覚。まるでいつもの街が、別の街のように見えた。その頃は、どこにもいる自転車少年だった。

しかし俺が違ったのは、ずっと自転車にはまり続けていることだろう。多くの子供は、必ず自転車に触れる。はまる子も多い。だが、すぐに子供達の中の「ブーム」は過ぎ去ってしまう。が、俺はその後もはまり続けた。小学校中学年、高学年、そして中学生になっても。

最初は自分の街を走り回っていた。そして、隣町、そのまた隣町…俺の世界は広がっていった。中学も終わるころには、100キロ走れるようにはなっていた。

俺は幼いころから勉強も得意だった。そのせいでいじめられたこともあったが、嫌な事がある度、俺は自転車に乗って忘れようとした。そして自転車にはまっていた。

そして高校受験。第一希望にしていた私立高校に受かった。合格祝いとして、親はロードバイクを買ってくれた。それまでMTBRルック車に乗っていた俺は、その走りの違いに感動した。軽いスタート。ペダルを漕げば漕ぐほど速く速く進んでいく。この魅力に俺が取り付かれないわけがなかった。

それまで自己流でやってきた自転車だったが、自転車雑誌などで専門的に情報を取り入れ始めた。ペダルの漕ぎ方や回転数、理想的な

フォーム、そして「ロードレース」の存在：

そして、俺は本格的に練習を始めた。俺の街から少々離れたところに、1000m級の山があった。そこにはきつい峠もあった。前に何度かいったことがある。そこで、俺はタイムを計って練習した。今日行われるヒルクライムレースの為に。

そして今日はレース。

練習を重ねた山を一つ越えたところに、さらに高い山があった。そこで毎年行われるヒルクライムレース。距離10km、高低差800m、平均勾配8%。参加者約500人。コースはきちんと調べてある。

スタートまで1分。独特の緊張感が漂う。

やれるさ。ちゃんと練習してきたんだ。完走できる。本に書いてあったことを冷静に思い出すんだ。序盤は無理をせず、正しいフォームを意識。常に前を見て勾配を確認し、的確なシフトチェンジを行い、回転数を一定に保つ…。あんだけあの山で練習したんだ。できる。

そして、轟砲が鳴り響いた。

あとがき

初めての投稿になります。レグルスです。ちなみに性別は男です。

この「峠の覇者」前後編でお送りします。もともと連載を考えていたのですが、とりあえず様子見ということで。評判がよさげだったら連載化予定。

マイナースポーツである「ロードレース」を題材にしてみました。もちろん、僕の趣味は自転車です。ツール・ド・フランスもちゃんとしています。そして僕が好きなのは登り坂。もともと登り坂が好きで、曾田正人先生の自転車漫画「シャカリキ！」を読んでからさらに好きになりました。

と、こんなわけで、後編はいよいよヒルクライムレースの本番です。お楽しみにっ！

・前編・（後書き）

あとがきってこっちに書くの投稿するとき初めて知った…次回からはこっちに書きます。

・後編・（前書き）

ついにロードレースに出ることになった「俺」。その先には何を彼が待っているのか…

轟砲と共に、俺はシューズをペダルにはめ、ペダルを漕ぎ出した。確か最初の直線を曲がれば、すぐに坂があったはずだ。そこから坂はずっと緩まない。

下調べした通り、やはり直線を曲がるときつい坂が視界に入った。ギアを一つ軽くする。回転数は目測で85とあったところか。問題ない。フォームはどうだ。骨盤を立てる。真つ直ぐ前を見るんだ。…俺はそんなことを考えながらコースを進んでいった。

次第に回転数を維持するのがきつくなってくる。ギアをまた一つ軽くする。インナーとはいえ、ギアはまだたくさん残ってる。回転数を維持するのが最優先だ。

ふと、スタートから何km来たのか気になって、サイコンをいじった。…まだ2kmか。あと8kmもある。ちゃんと走りきれるだろうか…不意に不安が襲ってくる。

ひたすらペダルを漕いでいると、見晴らしのよい場所に来た。一瞬であったが、大きな山が見えた。ゴール地点はまだ遠そうだ。多くの選手が、それを見た瞬間驚嘆の表情をしているのが見えたが、俺はそうは思わなかった。…むしろ、心臓がバクバクした。

やっと5km。半分来た。あと半分。完走出来そうな感じがして来た。ペダリングやフォームが大分崩れているのは、自分でもわかった。ひたすら頂上を目指して漕ぐことしか、俺の頭にはなかった。

次第に顔が下を見る回数が増えてくる。フォームだ、ペダリングだ、

回転数だ、そんなことは頭から消え去っていた。あと何kmか、そんなことも俺にとってはどうでもよかった。ひたすら漕いでいた。足を止めたら終わりだ。漕げ。そう自分に言い聞かせて。

ふと顔を上げた。そこには「あと1km」という看板があった。

俺は立ち漕ぎダンシングを始めた。残された力のすべてを、ペダルにぶつけた。

次第にゴールが視界に入ってきた。俺がただ我武者羅に漕いだ。そして「GOAL」の文字が消えた瞬間：言葉に表せないほどの喜びが俺を襲った。

結果は500人中250位程度だった。初レースにしては上出来である。

俺の中で、自転車の楽しさがまた一つ広がった。

これからもどんどん広がっていくだろう。俺はいつか、その頂点に立ちたい。そんな思いまで心の中で浮かび始めた。

俺は

峠カンピオーネの覇者になる。

・後編・（後書き）

やっと書き終わった…。

とりあえず、この作品の評価を見て、長編を投稿するかどうか考えているところです。

いちおう長編の題名は発表しておきます。「カンピオーネ」です。  
では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0238e/>

---

峠の覇者

2010年10月28日08時40分発行